

講義名	教養特講 (グローバルビジネスパーソンへのいざない)			授業形態	
担当教員	三浦 玉緒	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 1時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

企業において、グローバルビジネスに携わる機会は今後益々増加することが考えられます。本科目では、グローバルビジネスの概要を理解し、実務に役立つ用語に触れ、海外取引に関する内容について英語によるE・メールコミュニケーションを経験することを目的としています。

到達目標

グローバルビジネスの基礎的な知識を身につける
 グローバルビジネスの実務を事例に、取引先との英語によるE・メールコミュニケーションを体験する

提出課題

中間課題、期末課題ともに、パソコンのメールソフト (Outlook) を使用し、英語のメールを作成し、発信頂きます。
 各回の講義においても、講義内容に関わる課題に対し、パソコンのOutlookを使用し、英語のメールを作成し、発信頂きます。

課題 (レポートや小テスト等) に対するフィードバックの方法

Ryuka Portalあるいは、講義内で教員からフィードバックを行います。

評価の基準

各回課題 30%、中間課題 30%、期末課題 40%。
 中間、期末課題の提出は、単位取得の必須条件とします。
 3分の1以上欠席した場合は、課題の提出は受理されません。

履修にあたっての注意・助言他

グローバルビジネスの実務における各場面で求められる内容について、如何に英語で取引先に伝えるかE・メールコミュニケーションを体験することを目的としていますので、英語の文法、表現等の正確性は重視していません。企業での英語によるE・メールコミュニケーションに事前に関わるための授業となります。グローバルビジネス、英語によるE・メールコミュニケーションに興味のある方、GSPを履修された方、あるいは目指している方を対象としています。
 状況次第で、授業の内容や順番を変更することがあります。

教科書

参考図書

.入門・貿易実務	橋 弘次	日本経済新聞出版社	9784532112448

その他

授業計画

1. 貿易実務の基礎
 2. 取引相手先の選択
 3. 輸出入取引の交渉
 4. 輸出入取引の交渉
 5. 信用状
 6. 品質と数量の条件
 7. 中間課題と解説
 8. 国際輸送
 9. 為替リスク
 10. 荷役の取組み
 11. 輸入決済
 12. 新しい流れと実務への影響
 13. 備忘録
 14. 海外出張
 15. 期末課題と解説
- 状況によって、順番および内容を変更することがあります。

授業形態 (アクティブ・ラーニング)

<input type="radio"/> A: PBL (課題解決型学習)	<input type="radio"/> E: グループワーク
<input type="radio"/> W: ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> C: 実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> O: プレゼンテーション	
<input type="radio"/> K: その他 (A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間

資料は、事前にPDFファイルでRyuka Portalにアップロードする予定ですので、各自でダウンロードし、次回のテーマについて予習してください。
 復習を行い、各課題に備えてください。
 各回の予習・復習に4時間の学修を確保してください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

教養特講科目は、生涯を通じて学ぶにあたっての基礎を築き、社会経済環境の変化に応じた教養を養う科目群で、専門分野・領域にとらわれず時機に応じて開講しています。この科目は、将来、自身が関わるかもしれないグローバルビジネスの実務において、荷を取引先に伝える必要があるかについて主体的に考え、取引先との英語によるE・メールコミュニケーションに慣れ、グローバル企業において即戦力になることを目指した授業内容です。
 このことを通じて、全学共通のディプロマポリシーの次の項目の達成に役立ちます。
 ・ 知識を応用しに転換することができる、論理的思考力を持った人財
 ・ 課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査、整理することができる (情報収集力)
 ・ 収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる (情報分析力)
 ・ 現象や事実のなかに隠れている問題点やその裏面を発見し、解決すべき課題を設定することができる (課題発見力)
 ・ さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた道筋や段取りを明らかにした上で、具体化することができる (構想力)

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

資料は、PDFファイルでRyuka Portalにアップロードする予定です。
 Ryuka Portalでの講義視聴、課題連絡を各自で確認し、課題は所定の方法で期限を守って提出してください。
 各回、中間、期末の課題は、パソコンのメールソフト (Outlook) を使用し、英語のメールを作成し、発信頂きます。
 状況に応じ、グループでディスカッションしメールを作成して頂く場合があります。

実務経験の有無及び活用

製造業において、B2Bのグローバルビジネスに関わる実務経験があります。企業における実務の実際を踏まえつつ、授業を進めます。

備考

新型コロナウイルス感染症、あるいは授業の状況によりシラバス修正の可能性がります。